

(様式2) 実行計画管理シート

事業名		182	森林ボランティア育成事業		部・課	土木部	みち・みどり室
総合計画との関係	基本目標等		自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち				
	施策目標等		23 豊かな自然環境を大切にするまち				
	取り組みの方向		23-① 里山などの豊かな自然空間を保全・継承していくため、自然と親しみ、自然の大切さを発信するとともに、森林ボランティア育成などに取り組みます。				
	(関連施策目標等)						
	(関連施策目標等)						
	4つの重点的に進める施策との関係						
との関係	基本目標						
	施策目標						
市長公約との関係			＜所信表明・市政運営方針での表現＞				
	所信表明						
	2016(H28)年度市政運営方針						
	2017(H29)年度市政運営方針		○	第二京阪道路以东の里山については、貴重な地域資源として次世代に継承されるよう、第2次里山保全基本計画に基づき、市民等による森林ボランティアや、企業による社会・環境貢献活動を支援するなど、里山の活用を促進します。			
	2018(H30)年度市政運営方針						

事業概要 (目的・内容等)	枚方市里山保全基本計画に基づき、本市の東部地域に残された貴重な里山を市民参加で保全していくため、市内在住・在職・在学の市民を対象として、里山保全・森林保全に関する講座を開講し、里山保全活動を行う森林ボランティアを育成する。 平成16年度から実施しており、広報等で受講生の募集を行い、全6回の講義と実践実習を通じて、一人でも多くの市民の里山保全活動参加を目指す。
------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

取り組み状況

これまでの取り組み状況		平成16年度から25年度までは津田を実践実習フィールドとしていたが、平成25年度の台風の被災で国見山自然巡回歩道が通行止めとなり、津田のフィールドが使用できなくなった。そこで、平成26年度からは、実習後、里山ボランティア活動団体のフィールドに公用バスで赴く形態とし、幅広い実習内容となった。 これまでの修了者数 平成24年度:25人、平成25年度:実習フィールド被災により中止、平成26年度:22人、平成27年度:19人
2016(H28)年度の取り組み	予定・目標	里山講座の実施 里山講座の情報提供(次回、参加者への周知、啓発)
	実績(評価)	里山講座を全6回実施した(うち1回雨天中止)。参加者へは、里山の知識を習得してもらい、里山ボランティア活動団体への参加を促した。ほか、里山講座の周知について、エコフォーラム等でPRした。
2017(H29)年度の取り組み	予定・目標	里山講座の実施 里山講座の情報提供(次回、参加者への周知、啓発)
	実績(評価)	里山講座を全6回実施した。参加者へは、里山の知識を習得してもらい、里山ボランティア活動団体への参加を促した。ほか、里山講座の周知について、エコフォーラム等でPRした。
2018(H30)年度の取り組み	予定・目標	里山保全の基本的な知識や技術の習得を目指す初心者用の里山講座と、ボランティアリーダーを育成することを目的とした経験者向けである森林スペシャリスト育成講座の実施 里山講座、森林スペシャリスト育成講座の情報提供(次回、参加者への周知、啓発)
	実績(評価)	里山講座については6回の連続講座を実施し、11名が修了した。また、森林スペシャリスト育成講座は11回の連続講座を実施し、8名が修了した。参加者へは、里山の知識を習得してもらい、里山ボランティア活動団体への参加を促した。また、里山講座及び森林スペシャリスト育成講座について、広報ひらかたやホームページなどでPRした。

2019(R1)年度の取り組み	予定・目標	里山保全の基本的な知識や技術の習得を目指す里山講座と、より高度な知識を取得することで里山保全の指導者となりえる人材を育成することを目的とした森林スペシャリスト育成講座の実施 里山講座、森林スペシャリスト育成講座の情報提供(次回、参加者への周知、啓発)
	実績(評価)	里山保全に関して基本的な知識や技術の習得ができる「里山講座」と、高度な知識を習得し将来的に里山保全活動を支える人材を育成する「森林スペシャリスト育成講座」を実施した。 ・里山講座 年6回、修了者:17人 ・森林スペシャリスト育成講座 年11回、修了者4人
備考		

課題・今後の対応	里山を貴重な地域資源として次世代に継承していくためには、里山の保全活動の担うボランティアの役割が重要であるが、里山ボランティア活動団体の後継者不足(高年齢化)が課題となっており、新たな活動の担い手を育成していく必要がある。		
	今後は、講座受講者だけでなく、多くの人に里山の魅力や保全活動の意義が伝わるよう、より効果的なPRを行っていく。また、講座修了者が里山保全活動に参加できるよう、関係団体と連絡調整し、必要なコーディネートを行っていく		
達成状況(実行計画)	○:達成に向けて進行・継続中	達成状況(市長公約)	○:達成に向けて進行・継続中

関連指標

指標名		施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
森林ボランティア育成講座修了者数（累計）		○		246	265	276	287	306	327	346	人	
指標の説明				令和元年度の里山講座の修了者は前年度11人から17人に増加したが、森林スペシャリストの修了者は、前年度8人から4人に減少した。講座の修了者数（累計）は目標値（R1）は下回ったものの、目標値の94％を達成しており、里山保全活動を担うボランティアの育成に一定の効果があったと考える。							当初目標値	達成年度
森林ボランティア育成講座の受講者のうち、規定の日数に出席し、修了証を取得した人数（累計）												
指標名		施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明											当初目標値	達成年度
指標名		施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明											当初目標値	達成年度
指標名		施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明											当初目標値	達成年度

事業費(決算ベース)

単位:千円

年度	事業費総額	国庫支出	府支出金	起債	受益者負担	その他	一般財源
2016(H28)年度	273	0	0	0	0	0	273
2017(H29)年度	359	0	0	0	0	0	359
2018(H30)年度	1,709	0	0	0	0	1,292	417
2019(R1)年度	1,764					1,438	326

整備事業の場合の総事業費	0千円	(建設経費	0千円	, 用地費	0千円)
--------------	-----	-------	-----	-------	------

(様式2) 実行計画管理シート

事業名		183	里山保全推進事業	部・課	土木部 みち・みどり室
総合計画との関係	基本目標等		自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち		
	施策目標等		23 豊かな自然環境を大切にするまち		
	取り組みの方向		23-① 里山などの豊かな自然空間を保全・継承していくため、自然と親しみ、自然の大切さを発信するとともに、森林ボランティア育成などに取り組みます。		
	(関連施策目標等)				
	(関連施策目標等)				
	4つの重点的に進める施策との関係				
総合戦略との関係	基本目標				
	施策目標				
市長公約との関係			＜所信表明・市政運営方針での表現＞		
	所信表明				
	2016(H28)年度市政運営方針	○	第二京阪以東の里山の保全・活用については、里山保全基本計画の改定に取り組むとともに、里山を市民全体の貴重な地域資源として保全・継承する。		
	2017(H29)年度市政運営方針	○	第二京阪道路以東の里山については、貴重な地域資源として次世代に継承されるよう、第2次里山保全基本計画に基づき、市民等による森林ボランティアや、企業による社会・環境貢献活動を支援するなど、里山の活用を促進する。		
	2018(H30)年度市政運営方針				
事業概要 (目的・内容等)			第二京阪道路以東の東部地域の里山を、市民全体の貴重な財産として保全継承していくため、里山保全基本計画に基づき、市民、地権者等、本市の里山保全に関する取り組みを進める。また、里山保全基本計画を現状に即した計画に改定する。		

取り組み状況

これまでの取り組み状況		<ul style="list-style-type: none"> ・津田地区・穂谷地区の森づくり委員会の開催 ・里山保全活動団体との意見交換会の開催 ・大阪府森林整備関係事業(津田地区の土砂流出防備保安林の指定、災害被災箇所における治山事業の事務等)の地元調整等 ・枚方の里山・収穫の秋穂谷、ふれあい土木展、エコフォーラム等の自然環境関連イベントにおける里山保全活動状況の情報発信、普及啓発
2016(H28)年度の取り組み	予定・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・里山保全基本計画の改定 ・津田地区・穂谷地区の森づくり委員会の開催 ・里山ボランティア活動団体との意見交換会の開催 ・大阪府森林整備関係事業の調整 ・関連イベント等による普及啓発、情報発信
	実績(評価)	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次里山保全基本計画を策定した。 ・津田地区、穂谷地区の森づくり委員会をそれぞれ2回(合計4回)開催した。 ・里山ボランティア活動団体との意見交換を1回開催した。 ・大阪府森林整備関係事業の調整を行った。 ・関連イベント等による里山保全情報を発信、啓発に努めた。
2017(H29)年度の取り組み	予定・目標	→推進
	実績(評価)	<ul style="list-style-type: none"> ・津田地区、穂谷地区の森づくり委員会をそれぞれ1回(合計2回)開催した。 ・里山ボランティア活動団体との意見交換を1回開催した。 ・大阪府森林整備関係事業の調整を行った。 ・関連イベント等による里山保全情報を発信、啓発に努めた。
2018(H30)年度の取り組み	予定・目標	→推進
	実績(評価)	<ul style="list-style-type: none"> ・津田地区、穂谷地区の森づくり委員会をそれぞれ1回(合計2回)開催した。 ・里山ボランティア活動団体との意見交換を1回開催した。 ・大阪府森林整備関係事業の調整を行った。 ・関連イベント等による里山保全情報を発信、啓発に努めた。

2019(R1)年度の取り組み	予定・目標	→推進
	実績（評価）	・津田地区及び穂谷地区の森づくり委員会をそれぞれ年2回（6月・2月）開催した。 ・里山ボランティア活動団体との意見交換会を2回開催した。 ・大阪府と治山ダムなど森林整備関係事業の調整を行った。 ・枚方の里山・収穫の秋穂谷等のイベントで里山保全活動の啓発に努めた。
備考		

課題・今後の対応	<p>地権者やボランティア団体、東部地域を訪問する市民等の里山保全の意識に温度差があるため、森づくり委員会や里山ボランティア団体等との意見交換を行い、里山保全に関する意識の共有化を図っていく必要がある。</p> <p>今後は、平成27年度から実施している「里山ウィーキング」など、市民が身近に体験できるフィールド活動を積極的に取り入れることで、里山の利活用を促進し、里山への関心を高めていく。また、森林ボランティア育成事業を活用しながら、次代の里山保全活動を担う人材を育成し、その人材を、森づくり委員会や里山ボランティア団体と結びつけることで里山保全活動の推進を図っていく。</p>		
	達成状況（実行計画）	○：達成に向けて進行・継続中	達成状況（市長公約）○：達成に向けて進行・継続中

関連指標

指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
里山保全活動団体の活動日数	○		1,966	2,243	2,511	2,779	3,032	3,294	3,296	日	
指標の説明			里山ボランティア活動団体の年間活動日数は、令和元年度は前年度から262日増加した。全体としては、目標値(R1)を僅かに下回ったが、年間活動日数は年々増加傾向にあり、里山保全活動の推進につながっている。							当初目標値	達成年度
東部地域で活動する里山ボランティア活動団体の年間活動日数											
指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
東部地域の緑被率	○		77.9	77.9	77.9	77.9	77.9	78.7	77.9	%	
指標の説明			四年毎に調査を実施しており、令和元年度の調査では山林の造成地、法面等の草地化により、緑被率が0.8ポイント上昇し、目標値(R1)を上回った。							当初目標値	達成年度
第二京阪道路以東の地域における緑で被われた土地の面積の割合											
指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明										当初目標値	達成年度
指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明										当初目標値	達成年度

事業費(決算ベース)

単位:千円

年度	事業費総額	国庫支出	府支出金	起債	受益者負担	その他	一般財源
2016(H28)年度	33	0	0	0	0	0	33
2017(H29)年度	109	0	0	0	0	0	109
2018(H30)年度	1,590	0	0	0	0	1,284	306
2019(R1)年度	594					406	188

整備事業の場合の総事業費	0千円	(建設経費	0千円	，用地費	0千円)
--------------	-----	-------	-----	------	------

(様式2) 実行計画管理シート

事業名		184	自然保護啓発事業	部・課	環境部	環境政策室
総合計画との関係	基本目標等		自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち			
	施策目標等		23 豊かな自然環境を大切にするまち			
	取り組みの方向		23-② 市街地に残された貴重な農地や樹林地の保全に取り組みます。			
	(関連施策目標等)					
	(関連施策目標等)					
	4つの重点的に進める施策との関係					
総合戦略との関係	基本目標					
	施策目標					
市長公約との関係			＜所信表明・市政運営方針での表現＞			
	所信表明					
	2016(H28)年度市政運営方針					
	2017(H29)年度市政運営方針	○	市民の自然環境への関心と理解を高め、市域の自然環境の現況等を把握するため、市民参加型の自然環境調査を実施する。			
	2018(H30)年度市政運営方針	○	市域の自然環境の現況を把握するとともに、市民の自然環境に対する関心をさらに高めるため、市民参加型の自然環境調査を継続して行う。			
事業概要 (目的・内容等)			都市に残された自然環境や市域に生息する動植物を守るため、自然観察会や講演会の開催等により、自然保護の啓発を行う。また、昭和63年から平成元年にかけて実施した第1回自然環境調査以降、自然環境保全法第4条に準じ、概ね5年毎に調査を実施しており、この度、平成29年から30年度の2ヵ年にかけて第6回目の調査を実施する。調査には、専門家による調査とともに、市民参加型の調査手法を取り入れることにより、市民が自然環境の大切さを実感することで、環境保全に対する理解と関心を高めることを目的とする。			

取り組み状況

これまでの取り組み状況		毎年、小学生以下の子どもとその保護者を対象とした自然観察会を開催することにより、枚方市に残る身近な自然と触れあうことのできる機会を創出するとともに、自然保護をテーマとした講演会を開催することにより、市民の自然環境の保全に関する意識啓発を行ってきた。自然環境調査については、第1回から第5回にかけて、全域調査と補完調査を交互に実施し、市域における動植物の生息状況等の基礎資料としてきた。また、調査結果を取りまとめた市民啓発用のパンフレットを作成し、公共施設や自然観察会等のイベントで配布した。			
2016(H28)年度の取り組み	予定・目標	①自然観察会の開催 ②自然保護や生物多様性に関する講演会の開催 ③第6回の調査に向けて、調査実施場所や手法などの検討			
	実績(評価)	①「水辺の楽校」、「セミの抜け殻調査」、「山田池昆虫教室」など自然観察会を5回開催し、計234人の参加があった。 ②自然環境を考える講演会を12月に開催し、55人の参加があった。 ③調査実施場所や手法を検討し、仕様書を作成。H30の調査実施に向けて、委託契約手続きを進めた。			
2017(H29)年度の取り組み	予定・目標	①②→推進 ③自然環境調査の実施			
	実績(評価)	①「水辺の楽校」、「セミの抜け殻調査」、「山田池昆虫教室」など自然観察会を5回開催し、計213人の参加があった。 ②自然環境を考える講演会を1月に開催し、46人の参加があった。 ③5月に委託契約を締結し、自然環境調査を実施した。(市民参加型調査として、市民調査6回、公開調査3回実施。参加者合計137人。また、専門家による現地調査を48回実施)			
2018(H30)年度の取り組み	予定・目標	①②→推進 ③自然環境調査の実施、結果の公表			
	実績(評価)	①「セミの抜け殻調査」、「山田池昆虫教室」「葉っぱや木の実でナチュラルアート」など自然観察会を4回開催し、計144人の参加があった。 ②自然環境を考える講演会を1月に開催し、57人の参加があった。 ③自然環境調査を実施した。(市民参加型調査として、市民調査3回、公開調査3回実施。参加者合計116人。また、専門家による現地調査を22回実施)また、自然環境を考える講演会で調査結果の報告を行うとともに、調査結果を取りまとめた啓発用のパンフレットを作成した。			

2019(R1)年度の取り組み	予定・目標	①②→推進
	実績（評価）	①「セミの抜け殻調査」、「山田池昆虫教室」「葉っぱや木の実でナチュラルアート」など自然観察会を5回開催し、計186人の参加があった。 ②自然環境を考える講演会を1月に開催し、58人の参加があった。
備考		

課題・今後の対応	市民が自然環境に触れ合う機会をさらに増やすため、イベント開催のポスターやチラシを市関連施設のみでなく効果的な掲示場所を検討し、イベント開催の周知範囲を広げていく。また、現在行っている自然保護啓発イベントの内容をさらに充実させ、より魅力のあるものにしていく。	
達成状況（実行計画）	○：達成に向けて進行・継続中	達成状況（市長公約）○：達成に向けて進行・継続中

関連指標

指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
緑地面積	○		1,516	1,512	1,511	1,512	1,509	1,509	1,521	ha	
指標の説明			生産緑地面積が減少したものの、公園の開設により施設緑地が増加したため、増減なし。						当初目標値	達成年度	
都市公園やそれに準じる施設、緑地保全地域などの法律や条例などで土地利用を管理して確保する緑地など、将来にわたって確保される可能性の高い担保性のある緑地の面積											
指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
自然保護啓発イベントの参加者数			282	190	289	396	317	244	300	人	
指標の説明			H29・30年度は5年に1度の自然環境調査の参加者数が増加しており、目標値を上回っていたが、猛暑などの影響で夏期開催のイベントの参加者が減っている。						当初目標値	達成年度	
自然保護啓発イベントの参加者数											
指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明									当初目標値	達成年度	
指標名	施策指標	指標の実績（評価）	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R1)	単位	
指標の説明									当初目標値	達成年度	

事業費(決算ベース)

単位:千円

年度	事業費総額	国庫支出	府支出金	起債	受益者負担	その他	一般財源
2016(H28)年度	72	0	0	0	0	0	72
2017(H29)年度	4,026	0	0	0	0	0	4,026
2018(H30)年度	4,024	0	0	0	0	0	4,024
2019(R1)年度	134	0	0	0	0	0	134

整備事業の場合の総事業費

0 千円	(建設経費	0 千円	，用地費	0 千円)
------	-------	------	------	--------